

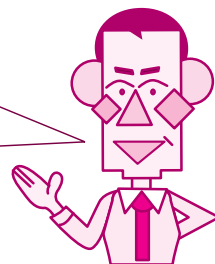
究極の

日商簿記 **3**級 ネット授業

堀川塾 塾長 堀川 洋

テキスト

本テキストを読む前、音声講義を聴く前に、下記のものをご用意ください。



● えんぴつ、赤ペン、ラインマーカー

音声講義のなかでひんぱんに講師から指示が出てきます。できるだけ忠実に指示に従ってください。復習時に最大の効果を発揮します。



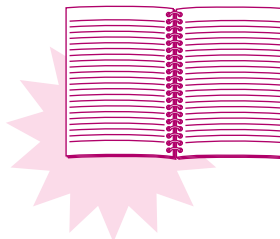
● 電卓(できれば簿記専用のもの)

日商簿記3級ではそれほど使用しませんが、それ以上の級を目標にしている方は、12桁以上の電卓を用意してください。



● ノートまたはメモ用紙

範例の解答用紙としてまたは計算の下書きとして必要です。



● ホンのちょっぴりのヤル気

日商簿記3級は資格試験すべての登竜門です。これを足がかりにいろいろな資格に挑戦してください。





まえがき

日商簿記3級は、よくいわれることですが、独学でも学ぶことができます。

これは簿記が、簡単な原理でその仕組みが構成されており、理路整然としているからです。この基本的な知識を身に付けて、演習問題や過去問題に取り組めば、概ね合格点の70点以上を取り、合格することができます。

書店などには多くの日商簿記3級用の受験参考書と問題集が並んでいます。ただこれらの書籍の内容にはあまり差がなく、紙面のイメージが多少異なるものの、いずれの参考書を使用しても、ほとんど大差なく同様の効果を得ることができるでしょう。

私も、これまで独学用の簿記参考書を多く手掛けてきました。

しかし専門学校の講師経験があることから、できれば書籍だけによる独学ではなく、もう一步踏み込んで、受験生に近い立場で簿記の指導ができないだろうかということ、常々感じていました。

昨今、著しいコンピュータの発展に伴い、簿記学習も専門学校へ直接通学するのではなく、パソコンの画面などで学習するWEBでの教育方法が、普及するようになってきました。

そこで書籍とインターネットを結び付けて、簿記のメディア教育をやってみようと考えて、**参考書となる書籍は書店で販売し、これは独立して使用できるテキストとし、さらに希望する方にはインターネットで音声による講義が受講できる**ような、書籍と音声講義が連動している形式の教育方法を試みることにしました。

本書によるメディア教育の特徴は、参考書は書店等で購入し、音声によるレクチャーはパソコンへ**いつでもアクセスし好きな時に勉強できる**というものです。

これは学習をする者には非常に便利であることは間違いありません。また**音声を通じて説明を聴くことにより、文字だけでは伝えることができなかった多くのことを理解することもできる**はずです。このような学習方法は、おそらくこれからの教育方法のスタンダードなスタイルになるはずです。

私は、専門学校の講師として簿記教育をこれまで30有余年経験してきました。講師は、講義を通じて自分の持っている知識の全てを受講生に伝えることが使命だと思います。今回、何より一番嬉しいことは、自分のこれまでの講師経験が新しいメディアを通じてもう一度生きた講義として再開できることです。今回も本書を通じて堀川式簿記を皆さんに伝えたいと考えています。



本書の特徴



1. WEB無料講義のメリット

資格を取得する方法には、専門スクールに通学するという一般的な方法があります。しかし、この専門スクールへの通学は、**高額な授業料と通学のための時間が必要**です。もう一つ資格取得の方法に、専門スクールに通学せずに、書籍等を用いての独学があります。

目標とする資格が、難易度の高い司法試験や公認会計士試験であれば、時間的なこと、また学習効率等を考慮し、専門スクールへ通学した方が短期間でこれらの試験に合格することができます。しかし日本商工会議所の簿記検定であれば、書籍による学習で十分に合格は狙えるはずで。これを念頭に、私もこれまでいくつかの簿記検定用の参考書を出版してきました。これにより多くの読者の方から、合格の御礼も頂戴し、書籍のみの独学という学習方法もそれなりの効果があると考えていました。



2. 専門スクールへの通学と同等の講義が受講できる

講義は、講師が実際に話をするライブ講義を、直接聴講することが理想です。これを1対1のマンツーマンで行うことができれば、これは最も理想的な教育方法です。

多くの受験生は、専門スクールへ通学し、ライブ講義を実際に聴講したいというのが本音のようです。ただ受験生の多くは、時間的、距離的、経済的など様々な事情により、専門スクールへの通学を諦めているというのが、残念ながらその実情です。

もし参考書と何らかの媒体を融合して、ライブ講義を受講しているのと同様、あるいはそれ以上の学習効果や満足感が味わえるとしたら、これは受験生にとっては夢のようなことだと思います。実際にこれを実現する方法として、専門スクールもDVD等を使用した通信教育を実施しています。しかし、これも根本的な問題である経済面での解決にはなりません。



3. 無料の通信教育

もし専門スクールの通信教育、あるいはそれ以上の学習が無料で受講できるとしたらどうでしょう。

これほど受験生にとって嬉しいことはないはずです。独学で参考書を使い闇雲に学習してい



た受験生に、重要論点の解説や計算問題の注意点など、学習上のポイントが明確になるわけですから、学習の成果は想像以上のはずです。もちろん通信教育ですから、その特性である好きな時に、自分のペースで自由に学習もできます。これなら無料であることと相まって、受験生にはベストの学習環境になるはずです。



4. 無料のネットで簿記学習

通信教育を実際に行うとすれば、どのような手段で教育コンテンツを受講生に届けるかということを最優先に考えなければなりません。通信教育にはテキスト等のハード面と、音声や映像等のソフト面のデリバリーが必要です。

そこで今回は、テキストは書店やネットショップで簡単に購入することができるようにしました。すでに皆さんは、本書を手に行っているわけですから、ハード面のコンテンツは準備が完了しています。次にソフト面である音声によるコンテンツの提供については、**WEBを使って音声を無料で配信すること**にしました。これにより、誰でも簡単にWEBに接続して、自由に音声を聞くことができます。

この書店でのテキスト販売とWEBによる音声配信を組み合わせることにより、簿記検定の通信講座が、簡単かつ低額で受験生に提供することができるようにしてあります。



5. 講義一体型の参考書

受験参考書は文字通り、読者が読んで学習知識を吸収できるように、その内容が構成されています。ただ、もしこの自分の参考書に、重要事項のマーカ―やメモを入れるとしても、これは受験生独自の判断で行わなければなりません。

しかしこれもWEBによる音声で、具体的な説明や指示ができたらしょう。これまで何となくしていた**マーキングやメモが本当に大事なところだけに絞られる**わけですから、後日参考書を読み直しても、ポイントだけが浮き彫りになります。

この意味で本書は、受講生が自分で赤ペン、ライン・マーカ―、鉛筆を持ち私と一緒に作り上げていく自習テキストと考えて下さい。



6. 板書による要点整理の指示

もう一つライブ講義では、講師が説明をしながら行われる板書と、これをノートに記述するというライブ講義独特の講師から生徒への情報伝達があります。

この板書も、通信教育だから不可能だというのではなく、ライブ講義と同じように講師と読者の間であることができたらどうでしょう。しかもノートなどを用意することなく書籍に板書

スペースがあったとしたら、これまでの通信教育の学習方法を超越することになるはずですが。

本書は各セクションに、**板書事項に関する事項をWEBからの音声によりまとめることができる**スペースを用意して、紙面が構成されています。



7. 参考書を越えたテキスト

これにより本書は、単なる受験用の読むだけの参考書を超越して、**講師である私と皆さん受験生が一体となって作り上げる本格的「自習用テキスト」**になるわけです。

まず本書を読みながら参考書として、各項目について学習をして下さい。次に各セクション別に範例が付されていますから、本書を読んだ直後にこれを解いて下さい。これにより、各項目の内容が理解できているかどうか点検できます。ここまでは、通常の参考書と同じ使用方法です。

その後でWEBによる音声を聞けば、私が各セクションの説明、重要部分や計算上の注意点、簿記検定試験での出題傾向などを説明しています。

最後に、板書に記載する事項として、そのセクションの要点整理について、皆さんと一緒にその内容をまとめていきたいと思えます。講義中に適時指示を出しますので、できるだけ忠実にこれらを記述してください。



8. 質問の受付

学習にはもう一つ重要なファクター（要素）が必要です。**これは学習者の疑問点をどのようにして解決するか**という点です。受験生は学習に際して、常に疑問を持ちます。取り留めのないものから、学習上重要なもの、また誤解など、いずれにしてもこれらは即時解決しなければなりません。

これまでも出版した書籍について、多くのご質問をいただいています。これらの質問には、できるだけ丁寧に対応してきたつもりです。

本書では、音声による解説がWEBで行われているとはいえ、受験生はいろいろな疑問を抱くと思われます。この受講生の疑問には、これまでと同様にできるだけ迅速かつ丁寧に回答をするつもりです。**本書の疑問点は、下記のメール・アドレスまで遠慮なく**して欲しいと思えます。

堀川塾質問受付メールアドレス

shitsumon@horikawajuku.com



本書の学習方法 ……



本書は日本商工会議所主催の簿記3級受験用参考書です。したがって参考書として各論点を精読すれば、その内容が理解できるように、各論点が基本説明、取引例、さらに範例の各項目で構成がされています。



本書では更にその内容を詳しく説明するために、音声による講義をWEBで無料配信しています。

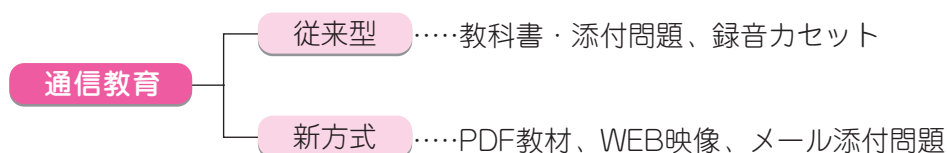
これにより参考書としてその内容を理解する以上に、各論点の詳細や問題の解答方法などを分かりやすく理解することができます。

特にWEBによる音声では、**基本説明における内容を中心に**行っています。これは簿記が記帳に関する独特な手法であるために、初心者にはこの独特な手法を理解することが、簿記そのものの知識を深めることに直接関係するからです。



わが国では、英会話などの学習が通信教育としてラジオ放送や録音媒体（カセット）などを利用して社会人等を対象にして盛んに行われています。したがって通信教育が新しいメディアであるCD、DVD、WEBなどを利用して行われても、これが斬新な教育システムであるということではありません。

しかしながら教育分野によっては、いまだに教材と問題添削のみという従来型の古い教育システムが用いられているものも存在します。ただ簿記教育などは一部の専門スクールで少しずつ新しいメディアによる教育システムが導入されつつあります。

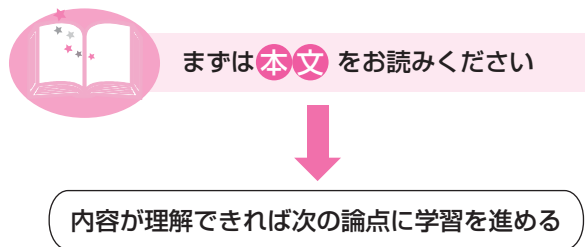


本書は、新たな教育システムへの先駆けとして、書籍は一般書店で参考書という位置付けで購入することができます。これを独学で検定対策用の参考書として使用することができるように内容構成しておき、さらに書籍の詳細がWEBにより補習できるような仕組みにしてあります。

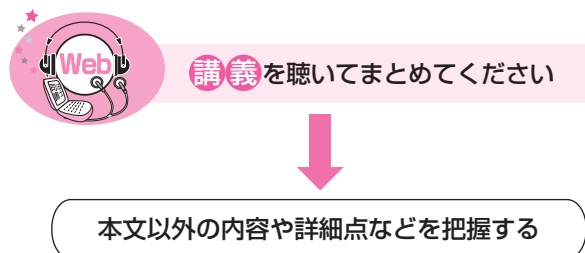
このような学習方法は、簿記学習に限らないことなのですが、現在の若い世代の学習者は、**従来型の対面形式の講義ではなく、自分の自由な時間で、好きなときに好きな場所で、好きなだけ学習を進めるという学習の利便性**の方に教育の価値を見いだしているのではないかと考えたからです。

もし若い世代が、そのような新しい教育システムを望むのであれば、我々教育コンテンツを開発、提供する側も、やはりその時代に合うシステムを開発しなければなりません。そこで本書では、その第一歩として一般書籍とWEBによる音声を結合させた簿記教育にチャレンジすることにしました。

第1章から第6章までの各セクションは、各論点についての説明が文章でなされています。これについては「まず本文をお読みください」としてあります。そのセクションの音声を耳にする前に一読して下さい。これは取引例、さらに範例と続きますから、最後までまず読んで下さい。



さらに理解がいま一步であったり、詳細の説明を聞きたいと思えばWEBによる音声にて該当するセクションの説明を聞いて下さい。





また音声による説明を聞き終わったあとで、その内容を自分で文章にまとめることができるように各セクションの最後に要点整理の記述スペースを用意してあります。ここに各セクションのまとめを書き込んで下さい。

各セクション最後の記述スペース



書籍、音声から学んだ要点を書き込む

もし記述すべき内容で不明点があれば、**堀川塾のHP**上で記述内容が公開されていますから参考にして下さい。

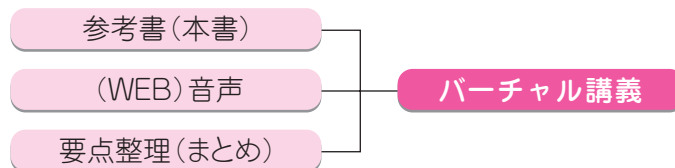
堀川塾ホームページ

<http://www.horikawajuku.com>



ライブ講義は講師が各論点を説明して、受講生は耳からまずその内容を理解します。さらにその内容を補助するものとしてテキストがあります。またこれらの内容を講師が板書によりまとめ受講生はこれを書き写すという方法で行われます。

これと同じことを本書とWEBの音声さらにこれを要点整理の記述スペースでまとめるという方法で進めることにより、ライブ講義を受けている効果と同様の学習成果を得ることができます。



このような新しい試みとして出版した本書、またWEBによる音声講義を参考にしながら各セクションの要点整理欄に書き込みを行い、完全に本書を使いこなしてほしいと思います。